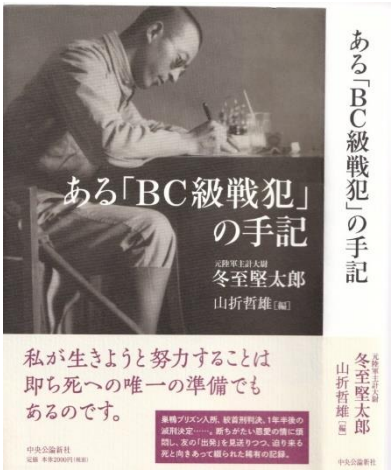
豊庄だより

第 731 号 2022 年 11 月 7 日

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

久しぶりに飯倉校区人権尊重推進協議会（以下、人尊協）のフィールドワークを行いました（１１月５日）。前回が、2019 年 10 月 10 日でしたので、3 年間の空白があったことになります。これまで飯倉人尊協では、2003 年から千代・馬出地区、筑豊、韓国、熊本（菊池恵楓園）、小竹・門司、長崎、八女、大牟田、大刀洗、佐世保、久留米、広島、沖縄など、人権、戦争と平和をテーマに毎年フィールドワークを行ってきました。現地で、その地の歴史に詳しい人（証言を聞くことも）に講師をお願いし、お話を伺いました。そして、参加者が学んだこと、思ったことをまとめ、人権週間期間に開催している「人権まつり（2001 年から）」で校区のみなさんに発表をしてきました。

しかし、2020 年度からコロナ禍のため、フィールドワークは中止、「人権まつり」もその規模を縮小せざるを得なくなりました。その間、人尊協では、少人数による学習会や講演会は行っていましたが、「早くフィールドワークをしたい」という思いが抑えられなくなり、今回、人数を絞って行いました。急な企画にもかかわらず、これまで一緒に取り組んできた仲間が 15 人も集まりました。中には 1 回目から参加されていた 20 年近くになる方もいて、「さすが、飯倉人尊協！」という思いを持ちました。



さて、今回の行き先は、油山観音（城南区）でした。2019 年のフィールドワークは、「福岡大空襲の戦争遺跡を訪ねる」がテーマで、事前学習で空襲の全容を学びました。そこで分かったのは、「1 回のフィールドワークでは到底回り切れない」ということでした。そこで、「今回は福岡市中央区と博多区に絞ろう」ということになり、最後に訪れたのが、赤坂小でした。ここは、戦争中、日本軍第十六方面軍（西部軍）があったところで、1945 年 6 月 19 日の福岡大空襲の翌日、捕虜にした B29 の搭乗員を裁判にかけずに斬首した現場でした。この事件に関わった人の本が、フィールドワークを行った年の 7 月に出版されていて、その経緯とその後が詳しく書かれていました。こんな内容です。

斬首事件に関わった人は、冬至堅太郎という人です。事件当時、陸軍主計中尉（のち大尉）で、西部軍で本土防衛の任についていました。福岡大空襲の翌 20 日、冬至さんは焼失した自宅を訪ねました。幸い父親は無事でしたが、母親は行方不明、捜しあぐねた冬至さんは近くの小学校に遺体置き場があると聞き駆けつけ、暗い廊下に息絶えて横たわる母親の姿を見出しました。ほとんど傷はなく、まるでもの思いに沈むかのように半ば目を閉じ、煙による窒息死であることが分かりました。冬至さんは司令部に戻りますが、そこでは米軍捕虜の処刑が行われようとしていました。「よし、親の仇は自分の手で」という思いを持ち、自ら志願し、4 人を斬首しました。のちに正式な軍法会議を経ての処刑ではなかったことを知りました。戦後、冬至さんは BC 級戦犯となり巣鴨プリズンに収容されました。1950 年に終身刑に減刑され、釈放され福岡に戻るのですが、自分の手で犠牲になった米兵捕虜に対する悔恨・懺悔の気持ちが募り、4 対の地蔵菩薩を自宅の庭に祀りました。その後、地蔵は冬至さんの死後、油山観音に寄進され、現在に至っています。私たちは、冬至堅太郎さんのご遺族である克也さんから、地蔵菩薩の前で話を聞くことができました。とても重い内容でまだ話されたことをまとめ切っていませんが、参加したメンバーと意見を交わしながら、校区のみなさんに報告していきたいと思っています。